

# 人 × まち = 未来

## 若い力で推進! 黒崎地区活性事業

「にぎわいづくり」を  
イベントで  
市民参加型



一般社団法人 北九州青年経営者会議 福島 寛

### たくさんの人がまちに集う そのきっかけを創造したい

黒崎地区で3年目となる黒崎大文化祭「黒フェス」は、創設55周年を迎えた北九州青年経営者会議が運営母体。市民によるステージライブやトラック市、餅まきなど内容は盛りだくさんです。「イベントはすべてがゼロからの手作り。中でも学生による料理コンテストは投票で優勝を決める参加型で、とても盛り上がりました」そう語るのは 会長の福島さん。前は



黒フェスでのダンスイベント

ふれあい通りを歩行者天国にし、2万人もの来者を集めたそうです。同会が主催するイベントでは、12月に



▲ヤングサンタ大集合!

開催される「ヤングサンタ」も人気です。学生ボランティアらがサンタクロースに扮し、各家庭や施設の子どもたちにプレゼントを届けるというこの企画。実は16年前からはじまった取り組みで、サンタ歴10年のベテランもいるとか。「プレゼントを貰った子どもたちが、将来ヤングサンタになる日が来るかもしれませんね」。

黒フェスもヤングサンタも次回はさらに進化を遂げるそうです。「どんどん新しいことに挑戦したい。イベントをきっかけにまちの良さを知ってもらえれば」。熱い想いを黒崎から発信中です。

西区の発展やにぎわいづくりを目指し、情熱的に活動する人々。未来を創造する開拓者がここにあります。



▲新社棟イメージ

## 産業観光の新しいスポット 黒崎駅南北回遊の起点に

今年、創立100周年を迎える安川電機では、黒崎駅北側にある事業所の社屋再編が行われています。注目は、事業所全体を「ロボット村」と位置づけ、要予約で誰でも自由に見学できる「安川電機みらい館」がオープンすること。最新の技術にふれることができ、ロボット展示や工作コーナーもあるなど子どもから大人まで楽しめます。根底にあるのは、創業から受け継がれている社会貢献の企業理念。「まずは八幡西区のものづくりのすごさを知

## 最先端施設「ロボット村」誕生で 副都心に新たな風

ていただきたいですね。そして、実際に目で見て、体感して、ロボットの魅力を知ってほしい。子どもたちが『いつかロボットを作りたい』と思ってくれれば嬉しいですね」と人事総務部の望月さん。お披露目は、本年6月2日になるそうです。時を合わせて、黒崎駅では北九州市・JR九州・安川電機の連携により南側と北側をつなぐ自由通路の建設も進められています。これにより黒崎駅の交通拠点としての機能が強化され、歩行者の利便性・安全性が向上。さらに、南北の回遊性を高めることで、まちを活性化させようという取り組みも始まっています。生まれ変わる黒崎駅界隈は新しいステージに突入です。



▼「安川電機みらい館」イメージ

安川電機みらい館のオープンに  
ご期待ください!



株式会社安川電機 望月 加奈恵 人事総務部

## 変わりゆく折尾で提案・実践型の まちづくりに挑む

折尾の可能性は無限!  
未来の折尾が  
楽しみです。



おりお未来21協議会 安井 紀義

### 次世代につながるまちを目指し、 地元の声をカタチにする

総合整備事業が進む折尾地区。まちづくりに積極的に関わっている「おりお未来21協議会」は、折尾の再開発をきっかけに地元自治区会や折尾商連等によって結成された団体で、まちづくりに関する調査・研究・実践活動を行っています。

「毎月会合を開いては、駅舎と駅前広場のあり方や駅周辺のにぎわいづくりについて議論しています。地元の意見を吸い上げ、行政や関係各所へ提案を行うのが私たちの役割。例えば、我々の提案もあって、旧駅舎の待合室にあった円形ベンチや棟飾りを新駅舎にも残すことが決まりました」と会長の安井さん。



▲旧駅舎前での出店の様子

旧駅舎の解体前には、「ありがとう折尾駅舎」感謝祭というイベントを開催。ライブステージや屋台販売なども実施し、別れにふさわしい盛り上がりだったそうです。「協議会の活動はまだこれから。まちの活性化や交通の利便向上など課題は山積みです。折尾の将来について皆で考え、孫の世代で『おじいちゃんたちが頑張ったから折尾はいい町になった』と言われたいですね」。96年の歴史に幕を下ろした旧駅舎も、きっとその活躍を見守っています。



▲ライブステージも大盛況



▲活動がまちへの愛着を深める

## 流域全体の交流と連携 地元愛の醸成を目指して

1620年代から福岡藩主・黒田長政の命によって切り開かれた堀川運河。以後、灌漑用水の確保や物資の輸送に活用され、この地に多くの恩恵をもたらしました。そんな歴史ある堀川を見つめ直し、流域全体の交流や連携を深めようと実施しているのが堀川いっせい清掃です。堀川まちおこし実行委員会が主催し、平成14年に始まって以来、10月第1日曜日に開催。折尾だけでなく中間や水巻など堀川流域の各地域団体や、学生ボラン

## 堀川を舞台に環境と活性の 育成モデルを発信

ティアなども集い、産官学民から700人が参加・協働する一大イベントに成長しました。「現在まで堀川が残っているのは、地域の人々が堀川とその歴史を残したいという思いを繋いできたから。それを僕たちが引き継いでいきたい」と野村さん。環境保全はもちろん、一番の目的はまちの活性化とか。「堀川がまちづくりの場となり、地元を愛する熱い心が育ってくれるといいですね」。堀川に架かる橋をペットボトル風車で飾る活動のほか、堀川に親しみ学ぶウォーキングイベントやバスツアーなども開催。堀川を舞台に、地域を想う心、環境を大切にする心は次世代へと脈々と流れ、受け継がれています。



▲堀川での清掃風景

堀川の風情は僕らの宝!  
まちに溶け込む



堀川まちおこし実行委員会 野村 一夫